

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第57号

ななえ古写真物語 VOL. 57

自然との距離

ラムサールによせて

昭和初め頃

大沼地区



七飯町を代表する観光名所でもある「大沼国定公園」。その歴史については、幾度か、この紙面を借りてお伝えしてきた所ですが、今年7月に、北海道では13ヵ所目となる「ラムサール条約」登録湿地の仲間入りをしました。

この条約は、1971年にイランのラムサールという町で「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択されたため、一般的に「ラムサール条約」と呼ばれますが、その目的には、生態系を育む湿地の保全と再生をはかり、それを維持することで、継続的にその恩恵を得て、人々の交流や教育普及に活用する事などがあげられます。

とにかく、今回の登録は七飯町にとって明るい話題だろうと感じていますし、将来的に、登録湿地範囲となっている場所だけではなく、周囲に広がる自然環境について考える契機になるように願ってやみません。

さて、上の写真は昭和初期に写されたと考えられるもので『大沼の風光集』という絵葉書セットの内一枚です。湖面に浮かぶ親子島、その手前には風をうけながら静かに漂う帆船、湖の後背には噴煙が上がっているようにも見える駒ヶ岳がそびえています。

どの場所を描いても、それなりの絵になる大沼の素晴しさは、山・樹・空・湖が絶妙に織り成すその景観にあるのだと思いますし、加えて四季の移ろいが、より深みを与えるのだと、訪れる度に感じています。

現在、大沼や小沼などの湖面でみられる島々のほとんどは、駒ヶ岳の噴火によって山体の一部が崩壊し、泥流や土石流などとして流れてきた「流山地形」と呼ばれるもので、いわば、自然が作り上げた造形美といえます。また、湖沼群も噴火活動によって川がせき止められて成立していることを考えると、自然の気まぐれが、大沼で見られる景観をつくりあげたと言えるでしょう。

ところで、自然と人との距離感というものを考えたことがあるでしょうか？自然は、人間が関らなくても、草花木果たちと昆虫、野鳥、動物たちが密接に繋がり調和を保とうとします。たとえ人間が良いと思って手を加えても、自然にとっては迷惑な事もあるのかもしれませんが、私は、これからの環境教育というものに、自然側から見た環境への配慮を醸成していくことも重要になってくるのではないかと静かに考えています。

1日

夜の博物館で「野鳥から見る自然環境」と題し、日本野鳥の会に所属する田中正彦氏にお話しを頂きました。

七飯町を中心に長年実施している標識調査から、近年、奇形の野鳥たちが増加していることや、自然環境がどのように変化していると考えられるのか、そして、ラムサール登録湿地となった大沼が、野鳥たちにとってどのような位置付けなのかなど興味深い話に受講者の方から熱心な質問が飛び交っていました。



講座の様子



太公望たち



はいチーズ！



ダ～ッシュ



7日

ジュニア探検クラブで「大沼で遊ぶ」と題し、魚釣りや虫捕りをしました。まずは、遊覧船に乗って大沼を周遊、連日の日照りで渇水し、陸地になっている場所が広がっている様子が観察できました。

その後は、釣堀で魚釣りです。釣り方のレクチャーを受け、いざ実践したのですが、中々釣れません。コツをつかんだ子は大物を釣り上げていました。最後は、虫捕りに挑戦！本格的な網を使いトンボやトノサマバッタを追いかけて走り回っていました。大沼を楽しめたかな？

26日

ふぁみりーでいみゅーじあむで「おひさまとあそぼう」と題し、日光写真に挑戦してみました。あいにく曇り空でしたが、透明な用紙に文字や絵を描いたり、花びらや葉っぱ、ビー玉をのせたりしながら、印画紙を光にあてて、アイロンで熱すると、あら不思議、とても個性的な写真のできあがり！

写真撮影用のライトでも試してみましたが、意外によい仕上がりになりました。初めての試みでしたが、みんな楽しんでもらえたかな？



みんな、楽しかったかな？

10月の予定

1	月
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月 体育の日
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土 ジュニア探検クラブ・町民文化祭
28	日 町民文化祭
29	月
30	火
31	水

※10月の休館日はありません。

秋の足音！

飛び回るアカトンボの色も鮮やかになってきました。皆さんも、散歩がてら秋の足音を感じていただければと思います。



編集後記 ～tawagoto～

残暑。暑さが残る・・・って残りすぎだろう！と突っ込みたくなるほど、毎日暑かったが、9月に入って一転、雲にも空気にも秋を感じるようになった。夕方にもなると、周りの虫の声も寂しげなコオロギたちの音色が響いている。

この時期になると、なぜか心が沈んでしまうのは、出番を待ちつつも、あまり使われる事のなかった虫捕り網が、私の背後に寂しげな佇まいで立っけられているからだろうか？ (やまだひさし)

Pich

～ピチャリ～

第57号

平成24年9月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp